

松ヶ鼻用水

松ヶ鼻用水は、日野川を水源とし、国府が置かれ古来より周辺地域の中心的都市であった越前市(旧武生市)から鯖江市の一部の農地を潤しています。

松ヶ鼻用水の歴史は、奈良時代の養老年間(720年頃)とも伝えられていますが定かではなく、これ以降、徐々に農業用水の姿が形づくられてきました。

文明・享禄年間の頃には「水路を正し、堰堤を築いた」とあり、農業用水として数々の改良を重ね、現在へと至っています。



かつて松ヶ鼻用水は、広大なかんがい区域の水需要に対して、その水量は不足がちであったため、昭和36年(1961年)から昭和51年(1976年)にかけて、それまで日野川に設置してきた木工沈床に換わるものとして、松ヶ鼻頭首工と幹線用排水路が整備され、ようやく安定した用水が確保されるようになりました。

その後、農業情勢の変貌に併せ、更なる有効活用を目的として、日野川用水のひとつとして平成16年4月から供用を開始しました。

現在の松ヶ鼻用水は、日野川から松ヶ鼻頭首工により取水され、かんがい用水として水田を潤すとともに、地域の景観保全や生活用水として活用され、地域用水としても役立っています。また、自然環境の保全や水に親しむための水路などが整備され、地域の子供たちの環境学習の場としても利用されています。